

# 論壇

## 重宝されるドギーバッグ

米国の高齢者の方とレストランで食事すると、必ず食べ残しが出る。若い人と同じだけの量を食べられないからだ。そこで食事後にドギーバッグに入れてくれということになる。ドギーバッグとは犬の袋という意味だが、家に帰ってから犬にあげるの残りをに入れてくれということだ。

もちろん実際には犬ではなく、自分たちが後で食べるために残りを入れてくれということだ。店の側もそれはよく分かっている。どのレストランにも食べ残しをきれいにいれるようなタッパーウェア

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

のようなものが用意されており、それに食べ残しを入れて渡してくれる。

ドギーバッグは、留学時代にもよく見かけた。学生が行くような米国のレストランは、どこも概して量が多い。学生でも食べきれないことが少なくない。ドギーバッグに入れてもらえば次の日の食事

### 食べ残し料理の持ち帰り

を作らなくても済むということだ。ドギーバッグが重宝していたのだ。

ただ、最近、米国の高齢者の生活を身近で見える機会があつて分かったことは、ドギーバッグの存在が高齢者の生活を助けているということだ。高齢者になると毎食自

宅で調理するのは大変だ。だから若い人よりは頻りに近くのレストランに行くことになる。ただ、外食すると費用がかさむ。そこでドギーバッグに残りを入れてもらえば、費用の節約にもなるし、調理の手間を省くことにもなる。人によつては、ドギーバッグで持ち帰ったものを冷凍にして、1週間

ほど後に食べる人もいる。こうした習慣は米国だけのものではない。先日招待された台湾の会議の主催者と、近郊の観光地に出かけた。そこで食べた料理はおいしかったが量が非常に多かった。ただ量が多いのは中華料理の常で、主催者の人は当たり前よ

うに残った料理をタッパーウェアに入れてもらつていた。それをみんなで分けて、家に帰って家族と一緒に食べるのだそうだ。こうした光景を海外で見ると、日本ではなぜ食べ残しを家に持っていけないのだろうかと思ふ。レストランで食べ残したものをお客が持ち帰って食中毒を起こされたら大変だ。だから持ち帰りはお断りしている。レストランの方はそう言うだろう。

### 消費者の自己責任尊重を

海外の人にこの話をしたら、笑い飛ばされるのではないだろうか。古くなった食べ物を食べて食中毒を起こすかどうかは、店の責任ではなく消費者の自己責任では

ないのか。古くなった食材を店で出して食中毒になるならそれは店の責任だ。ただ、店で堂々と出している安全な食事の残りを消費者が自己責任で持ち帰ることも禁じるとするのはどうかと思われる。

食品衛生上は、客が食べ残しを持ち帰ることを禁じる規制はないという。それよりも何かあつたら店の評判が落ちるといふことで、店の方が持ち帰りを嫌がつているようである。しかし消費者の利益を考えれば、そして消費者が食べ物の安全性を認識できるという能力を尊重すれば、もっとドギーバッグを出してくれる店が増えてもよいと思ふのだが。残念ながら自己責任を尊重するという風土が日本には根付いていない。それがこんなところにもあるようだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。